

次に、生活訓練のしかたとして、是非必要なことは、餘り賞罰の手を濫用しないことである。それは目の前にきゝめはあるが、それだけに、ほんとうの、底からの訓練にはなり難いことがある。それよりも、その生活そのものとしての感じを主にし、ゆく方がよい。即ち、その生活の愉快、快感に訴へてゆくのである。「手を洗ふ」にしても、それは子どもながらに快いことに相違ない。その快さを以て導くのである。それを逆にすれば、手を洗はないと不快であるといふところへ心を導いてゆくのである。これは、賞罰によるのに比べて甚だゆるやかなようであるが、これこそが、實は、一番きゝめが深いのである。生活訓練は生活訓練である。一々道徳的性質をもち一々道徳的價値で評價せられる程のことでもない。道徳的のことならば賞罰に相當もしようが、生活は、その快不快こそ、最も大きなものである。

が、いづれにしても、習慣であるから、例外なしに繰りかへさせるといふことが、一番有效な、必須の方法である。「水道の栓をしめるなど、道徳でもなし、又、子ども自身にとつて、格別、快でも不快でもない。といつて節水の理を話しても、幼児には分別やうもない。そこで、たゞもう一途に、反復によつて癖をつけるだけである。多少うるさがるかも知れないとしても、又、先生の方として大に面倒としても、それを怠らぬやうにしなければならぬ。

生活訓練は、子どもの方のことであつて、それがつかないと、

子どもが駄目とせられるが、實は、先生が駄目なのである。生活訓練をする生活訓練が、先づ、先生についてゐるのでなければならぬ。不精な先生、おつくりがりの先生、めんどうくさがりの先生、つまり、生活訓練にまめな先生でなくては、如何に生活訓練の必要を考へてゐるからとて出来るものではない。更に、恐らくは、生活訓練の快感を自ら體驗してゐるのでなくては、生活訓練の必要だけでは、決してほんとうに、先生のおたりまへにまでなるものではあるまい。

自由遊戯

上遠文子

夏が来た。まぶしい様な太陽の光の中に、汗ばんだ、日やけした子供達の顔をみる時、伸びよくぐんと伸びよ、と呼びたくなる。

暑いがしかし鍛練すべきこの夏に、子供達も戸外へ、そして大いに強くきたへたいものであります。

かげふみ

くつきりとうつゝ、自分の影、お友達達の影。何となく夏らしい楽しい遊びであります。鬼ごつこのやうに、ツヤンケンで鬼をきめます。鬼は逃げる人を追ひかけてゆき影をふまふとするので、踏まれた人は鬼になります。逃げる時、木の蔭又は家の影に自分の影をうづめてわからなくしてしまひます。鬼ごつこの陣といふ

わけになります。お陽様の關係で後にあると思つた影が前へ行つたり、思はぬ所に自分の影が出てゐたりして、仲々面白いものであります。

魚釣ごっこ

これは室内の遊びとして提供されます。前々から手技で作つてゐた新聞粘土の、或は畫洋紙で作つた様々のお魚を取捕へます。お魚の口の所には特別鉤をつけますが、それには針金がよろしいのですが、得られぬ場合は古いクリップ、ピン等利用してもよろしいでせう。但し、紙をぐる／＼まいて用ひる方が危険もないと思ひます。保育室の一隅に、お砂箱を利用して又床にじかに作つてもよろしい。石、箱積木又は空箱、ボール紙で圍ひをして池を作ります。そしてその中はお池の様に岩等、手技の折共同製作します。お魚を入れて、釣竿で釣るのです。釣竿は三〇厘位の竹の棒につけるのが理想ですがこれも得がたいもの、一つです。から紐だけで結構です。先を輪にしてお魚の鉤を引かけて釣る様に致します。さてこれで用意が出来ました。椅子臺の上につて釣つたり、太公望が深山あらはれることとせう。年長組では釣堀やさんなきめたりし他の組のお客様を混へたりして面白く遊べる事とせう。

この遊びをちよつと嗜好を變へてみました。魚釣り競走と名づけませうか。先づ御魚はこれで結構ですが大きいお魚にすれば尙結構。五〇米位走る豫定で、その三分の二位の所に臺か椅子を置きその上に釣竿をのせておき、床の上にはお魚をおいておきます。三米位の間隔に同じ様にして又椅子をおきます。皆は二組に分れ

ヨイドンで椅子の所に駆けてゆき、釣竿を持ち、椅子の上につて下のお魚を釣り、お魚を釣れたら引つけて決勝點まで持つてゆくのです。團體的に二組の競走にする場合は決勝點の場所にそれを置いて列の所まで走り次の人の手に觸ります。競走となるとお子さん達の小さい胸もわく／＼して仲々鉤に引つかゝりません。年長組の遊びですが、お魚が小さいと、とても難しくなりますから、お魚も大きく鉤も大きく、紐の輪も大きくしておかねばなりません。仲々根氣のいる遊びです。

障害物競走 といひますとさも陸上選手の様には聞えますが、小さい僕等だつて私達だつて、將來立派に成長してお國の爲になる體ですから、その體を何よりも強くきたへておかねばなりません。暑い／＼夏もなんのその暑い汗を流しませう。子供には子供に相當する、體力範圍の、鍛錬も又此の時代に必要かと、保育案に折込んでみました。障害物と言つても廣範圍ですがこれも年少組、年長組では多少加減致します。(一)繩飛びの繩二本間隔をおき横にならべそれを川又はクリークと假定致します。

勿論、年少組は狭く、年長組は次第にひろめてゆきます。川又はクリークに落ちるとすぶぬれになりますから落ちぬ様にとび越しませう。皆は落ちると大變と一生懸命にとびます。

(二)箱積木を縦横に利用してこれを飛び越える。

(三)箱積木の長いものを鐵橋として(普通いふ平均臺の代り)渡る。

(五)椅子と椅子の間に紐を張りその下を綱につかぬ様にする。これらの動作を二組位づゝ組合せて競技種目に致します。年長

組は種々複雑に組合せると面白いものです。

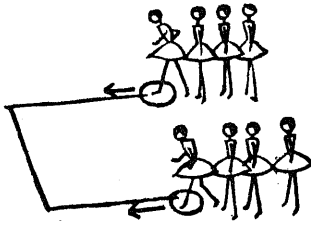
體力の弱いもの、仲々賢く通りぬけるもの、眞剣にやるもの、それ／＼子供達の個性が、體力がはつきりと書き出されます。體力の弱いものも度重なる毎に進歩をみることでせう。

ボンと繩のクリークを渡る足な、敵前何米かのクリークをピョンと一飛びにとびこすだらう姿と、將來を目に浮かべてみました。この様な遊びは無理、例へば子供達の體力外のレベルは却つて

失敗に終りますゆえさける事に致しませう。

陣とり。木蔭の涼しい所にコの字形の線を引いてみました。

兩方の端がそれ／＼陣で、ヨイドンで兩方から線に沿つて走り出します。途中おち會つた所でチャンケンをします。負けたら效力を失ひ後もどりで、勝つた人は一歩も早く敵の陣地へ近づかうとして走ります。その中に負けた方の組の人が、負けたことをすばやくさとり走り出して、その人とあたります。その様にして勝つた人は進み、負けた方はお代りの人で、はやく敵の陣地についた方が勝つて、負けたら、それをすばやくみつめて敵が来ない様にとび出してゆかねば陣をどられてしまひます。敵陣近くになると仲々接戦で、又もう一息の所で負けたりして面白いものであります。



やはり年長組の遊びでありませう。よく説明してはやくその面白味をわかる様に致しませう。

遊 戯

古 澤 静 子

音楽に合せ、一人歩くのさへ危かしく感じられた足ざり、まして多勢揃つて、直線的に歩くはずのものが、何時の間にか、波のうねりの様に曲線的になつてしまつた四月の頃に比べますと、何と颯爽たる姿勢、堂々とした歩調になつた事でありませう。何と彼等の身體に筋肉にビチ／＼した生氣が横溢した事でありませう。

今まで随分歩きました。又駈けました。スキップも致しました。何れも日常生活にある基本的動作である故、是等の正しい取扱ひは最も必要な事でありませう。結構な事でありませうから、今後とも大いに續けませう。時間的に、量的に、質的に、期に應じて種々複雑性を加へ、變化あらしめる事に致します。

一連の遊戯に於きましても、單的な物より幾分総合的なものに移り變つて参ります。

子供達は、たゞもう遊戯する事に依り、彼等自身、主觀的に運動の快感を體得するものでありませうが、それは、各人の全身體、全精神の躍動でなければなりません。

従つて足の先から手の指に至るまで、生々とした力が、張りきつて、緊張と解緊の絶え間ない循環の中に、自然的で、どこまで